



麻しん・風しん混合ワクチン(MR)の予防接種はお済みですか。

麻しん・風しんはどんな病気？

麻しんは、かかると高熱や発疹などの重い症状以外に、肺炎や脳炎などの生命を脅かす合併症を引き起こす可能性があります。

風しんは、妊娠初期の女性がかかると胎児が心臓病や白内障、聴覚障害を持つて生まれる可能性がある病気です。また大人になってかかると重症化しやすいです。

麻しん・風しんどちらの病気も感染力が強く、根本的な治療法はないので、予防が大切です。

予防が大事！

麻しん・風しんは予防接種で予防可能な感染症です。本人がかからない、重症化しないためであることはもちろん、周りに感染を広げないためにも予防接種を受けることが大切です。

昭和40年代に風しんの流行で多くの先天性風疹症候群の子ども達が生まれ大きな社会問題となりました。

平成10年～平成13年の間に2度麻し

麻しん・風しんの予防の為 MRワクチンは必ず2回接種しましょう！

んの大きな流行があり、県内で9名の乳幼児が亡くなりました。このような悲劇を2度と繰り返さないために、麻しんを蔓延させないことが大切です。

予防接種率95%をめざして

麻しん・風しん混合ワクチン(MR)の接種率が95%以上を保つことで流行を防ぐことが出来ると言われています。

麻しん・風しん(MR)ワクチンは、第1期として1歳児に1回、第2期として幼稚園相当児に1回、合計2回接種します。

うるま市の平成23年度麻しん・風しん第1期(1歳～2歳未満児)の接種率は、93.6%で、第2期(小学校就学前1年間の子)の接種率は、90.8%です。流行防止に効果的とされる95%には達していない状況です。

2回接種が必要な理由？

①一回の接種で免疫がつかなかった子どもたち(数%存在すると考えられます)に免疫を与えます。

②一回の接種で免疫がついたにも関わらずその後の時間の経過とともに

にその免疫が減衰した子どもたちに再び刺激を与え、免疫を強固なものにします。

早めの接種を！

第1期は1歳～2歳未満が公費負担(無料)の対象です。1歳のお誕生日を迎えたら、早めに接種しましょう。

平成24年度の第2期予防接種の対象者は、来年度に小学校入学を迎える幼児(平成18年4月2日～平成19年4月1日生まれ)の皆さんです。平成25年3月31日を過ぎると、公費負担(無料)対象外となり、自己負担での接種となるので注意が必要です。

注意喚起…風しん流行の兆し

数年来、報告のなかった風しんが、中部保健所管内で、6月13日以降19名報告されています。(7月27日現在) 地域でも既に流行している可能性があります。

妊娠する可能性のある女性は、風しんワクチン接種を、妊婦は妊婦健診で抗体価を確認してください。抗体価が低い(HI価16以下)と言われた場合は、感染しないように気をつけましょう。

行政措置による MR予防接種について

うるま市では、定期の予防接種を受けられなかった左記の方々に対し、行政措置として、平成24年4月1日～平成25年3月31日の期間に麻しん・風しん(MR)予防接種を無料で1回の接種を受けることができます。親子(母子)健康手帳を確認し、接種をするようにしましょう。

対象者

【第1期モレ】平成19年4月2日以降生まれの2歳以上の方でMR第1期を接種していない方

【第2期モレ】平成12年4月2日～平成18年4月1日生まれの方でMR第2期を接種していない方

【第3期モレ】平成7年4月2日～平成11年4月1日生まれの方でMR第3期を接種していない方

※詳しくは、健康支援課までお問い合わせください。